

## 令和7年度 学生FD CHAmmit 学部で対応可能な意見に対する報告書

## 学生意見の集約

実施日	実施内容
—	【具体的な実施方法】 Googleformsを利用し、学生から意見募集し、参加する教職員とも共有した。
—	—

## 学部で対応可能な意見

※学生FD CHAmmit当日、以下の内容を基に、参加学生からご説明いただきます。

学生からの意見（学部・学科の問題点）	対応済	対応中	問題解決のプロセス
<p>【意見】 学びの可視化とフィードバックの充実 ・試験やレポートの解説 ・授業15回終了後、動画や資料配信による総括</p> <p>【理由・経緯】 試験やレポートの結果に対する具体的なフィードバックは自分の理解度や課題を把握し、成長するためには不可欠であると考えられるため。</p>		○	<p>【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】 試験やレポートの結果、フィードバックを確認することで、学習の定着度が向上する。 動画や資料配信による総括をすることで、学習意欲の高い学生が復習することができる。</p> <p>【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 FD委員会において、実施方法を策定して、各教員に周知する。</p> <p>【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】 教員の負担が大きいため、十分なフィードバックが得られにくい現状がある。 学修ポートフォリオの拡充となるため、各種システム導入にかかる経費が必要となる。 AIによる自動フィードバックやピアレビュー制度を導入することで、教員の負担軽減にもつながると考えるが、要検討である。</p>
<p>【意見】 授業実施方法等に関する意見 ・Zoom等を活用して、受講スタイルを対面・オンラインを選べるようにしてほしい ・オンデマンド授業を増やして、履修制限を減らしてほしい ・少人数制の講義形態を導入してほしい ・学生主体の能動的な授業をしてほしい</p> <p>【理由・経緯】 履修制限により、希望の授業を履修できないことがあるため。講堂の収容量が十分でなく席が狭くなって、受講環境が悪くなっているため。 また、学生が主体的に議論し、課題を追及する場を増やすことができると考えられるため。</p>		○	<p>【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】 Zoomを利用したり、オンデマンド授業を増やしたりすることで、履修できる授業の選択肢が増えたり、受講環境が改善される。 少人数で学生主体の能動的な授業をすることで、より深い理解や応用力が養われ、ディスカッションやグループワーク、フィールドワークの拡充は実社会でも活かされる。</p> <p>【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 学務委員会において、授業実施方針についての協議をする。 学部及び各学科カリキュラムにおいて、学則変更に向けた検討材料とする。</p> <p>【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】 オンラインやオンデマンド授業を実施することにおける、教育効果について、学部での協議が必要である。 履修制限をすることで、教育効果を担保しているという側面もある。 少人数制授業を増やすことで、教員の担当講座数が増加することとなる。</p>
<p>【意見】 施設等に関する意見 ・学食のメニューを増やしてほしい ・ひとりで休憩するスペースを作してほしい</p> <p>【理由・経緯】 学食メニューが定番化しているから。 大学にひとりで休憩するスペースがないから。</p>		○	<p>【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】 学生の食生活が向上する。 学生の精神衛生上の環境が向上する。</p> <p>【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 学食業者へのメニュー改定について提案する。 ひとりで休憩できるスペースを確保する工事を実施する。</p> <p>【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】 限られた予算で対応できるかどうか検討が必要である。 休憩するスペースが確保できるかどうか確認が必要である。</p>

4	<b>【意見】</b> 全国の付属校ネットワークを活用した地域連携	○	<b>【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】</b> 大学と付属校，さらには地域との連携を強化することで，地域課題に取り組むフィールドワークやプロジェクト型学習を推進できる。
	<b>【理由・経緯】</b> 付属校の地域ごとの多様な課題や特色を活かした学びの場を設けやすい環境にあると考えられるため。		<b>【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】</b> 地域連携をテーマとする授業やゼミナール担当教員への働きかけをする。
5	<b>【意見】</b> ジェンダーに関する科目の拡充	○	<b>【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】</b> ジェンダーに関する知識が向上する。
	<b>【理由・経緯】</b> 日本は性教育が遅れていて，非常に重要な問題であるから。また，法学部でやらないのはもったいないと思うから。		<b>【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】</b> 学部及び各学科カリキュラムにおいて，学則変更に向けた検討材料とする。
その他	<b>【その他ニーズ等】</b>		<b>【①クリスマスツリー】</b> ライトアップは不要なので，学食の補助など別予算に充当してほしい
			<b>【②図書館前の掲示】</b> 上記同様に不要。学生に還元できる別予算に充当してほしい。